



誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校  
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～  
《学校だより 5月号 巻頭言》

令和8年4月30日(木)  
発行：摂津市立別府小学校  
校長 河平 浩一

## ～子どもたちの「今」と「これから」を大切に～

新しい学年がスタートして1か月、子どもたちは少しずつ新しい環境にも慣れ、それぞれの場所で自分らしさを発揮し始めています。

先日、4月16日に実施しました授業参観・懇談会にご参加いただき、ありがとうございました。新しい学年、新しい仲間たちとともに日々頑張っている姿をご覧いただけたのではないかと思います。

さて、今回の参観では、学校づくりの方向性について、これまでの取組とあわせてご報告させていただきました。2回あわせて、約40名の方にご参加いただきました。今後も折に触れて、学校の取組をご報告させていただきます。ぜひご参加ください。

そちらでもお話ししましたように、本校では「誰もが楽しく幸せに過ごせる学校」をめざして、教育活動を進めています。その実現に向けて、校長として大切にしている4つのキーワードがあります。

1つ目は「つながり」です。現代社会において、「孤独」や「孤立」は大きな課題となっています。学校においても同様であり、子ども同士、教職員、保護者、地域の皆様がしっかりとつながることが、安心して過ごせる土台になります。互いに認め合い、支え合う関係の中で、心理的安全性のある学校文化を築いていきたいと考えています。

2つ目は「あそび」です。子どもにとって「楽しい」と感じる原点は、やはり「あそび」にあります。遊びの中で人と関わり、気持ちを伝え合い、関係を築いていく力が育まれます。学びの時間と同じように、心にゆとりを生み出す「余白」としてのあそびも大切にしていきたいと思っています。

3つ目は「寛容さ」です。子どもたちは、それぞれ異なる背景や思いをもって学校にきています。その一人ひとりを、ありのまま受け止め、認めていくことを大切にしたいと考えています。学校には、家族とは違う立場であっても、自分のことを大切に思ってくれる大人がいる。その実感が、子どもたちの安心感や自己肯定感につながり、未来へと進む力になると信じています。

そして最後は「主役は子ども」です。言われたことをこなすだけでなく、自分で考え、判断し、行動できる子どもを育てていきたいと考えています。そのために、子どもたちを信じ、任せ、問いかけながら、当事者として学校づくりに関わる経験を積み重ねていきたいと考えています。

これまでの学校教育は、「教えること」が中心であった面もありました。しかし、これからの時代には、「自ら学び、考える力」がより一層求められます。子どもたちが「学校は自分にとって意味のある場所だ」と実感できるよう、教職員自身も問い続けながら教育活動を進めてまいります。

学校が、子どもたちにとって「自分は大切にされている」「ここにいていい」と感じられる場所でありたいと願っています。

そして、子どもたちが成長したときに、「別府小学校で過ごせてよかった」と誇りに思えるような学校にしていきたいと考えています。そのためには、学校だけでなく、保護者の皆様、地域の皆様との連携が欠かせません。子どもたちの成長を共に支え、喜び合える関係づくりを、これからも保護者・地域の皆様とともに進めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

